(様式3) 【学校用】

ふるさと教育 取組事例

学校名	大田市立第一中学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
2	総合的な 学習の時間	地域学習	大田市・松江市のきら☆びと (地域のもの・ことを継承し、 発展させようとしている方)
ねらい		・地域にある「もの・こと」とそれを継承し、発展させようと取り組む「ひと」の存在を知る。 ・地域の人との対話やパソコンなど、適切な方法で情報を集める。 ・地域にある問題を知り、その問題を解決するための方法を計画する。 ・体験や集めた情報をもとに、計画を見直し、改善する。 ・地域の「もの・こと」や立てた計画を、相手にわかりやすく伝える。 ・自分や友達のよさを生かしながら協力して、粘り強く活動に取り組む。 ・地域の人との関わりを通して自分の生き方を考え、自分にできること実践しようとする思いをもつ。	

1 取組の概要

- ① 大田市の「もの・こと」を知るために、大田市のきら☆びとから話を聞く。
- ② 大田市の「もの・こと」を発展させるためにプランを考える。
- ③ 考えたプランを大田市のきら☆びとに発表し、プラン内容・発表方法への助言を受ける。
- ④ 修学旅行で松江のきら☆びとヘプラン発表を行い、プラン内容・発表方法への助言を受ける。
- ⑤ 完成したプランを大田市のきら☆びとに発表し、大田市のきら☆びとから評価をいただく。



- 2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。 (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)
- ・地域の良さや課題の理解を深めるために、大田市の地域の「ひと」に地域の「もの・こと」を紹介していただいた。

(学力育成の視点から)

- ・地域の「もの・こと」にかかわる課題を解決する方法を立案する力、相手にわかりやすく伝える力 を付けるために、地域の「ひと」にプラン内容や発表のしかたについて助言をいただいた。
- 3 児童・生徒に見られた変容(どのような力が身に付いたか等) (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)
- ・地域に魅力的な「もの・こと」があると新たに発見していた。
- ・地域の「もの・こと」を継承・発展させようとする人が多くいることに気づくとともに、その生き方に感動し、自分も地域貢献しようという思いを強めていた。 (学力育成の視点から)
- ・実際に「もの・こと」にかかわっておられる地域の方に助言いただいたことで、実施可能な現実的なプランを作成する力がついた。そのプランの完成に向けて、2度地域の方から助言をいただく機会を設けたことで、助言に向き合い、粘り強く改善していく力がついた。
- *取組の様子がわかるような写真を数枚貼り付けてください。 (このデータを HP 等に掲載することがありますので、写真は必ず承諾を得たものを貼り付けてください。)

・地域の方へ3回発表会を行ったことで、見やすい発表資料を用いて、相手にわかりやすく伝える力がついた。

4 課題や今後の展望

- ・教育委員会や地域コーディネーターと連携したことで、講師決定を円滑に行うことができた。一方で、学校と地域の方との連絡が不足しており、地域の方の単元内容への理解が十分でなく、思うような助言がいただけなかったという反省があった。今後は、理解を深められるように地域の講師の方への対話を増やしたい。
- ・生徒が大田市の地域の「もの・こと」がある場所に訪れ、直接触れる機会をもつことができなかった。そのため、継承・発展させようという意欲をあまりもてない生徒がいた。本単元に入る前に職場体験で訪れるなど、3年間を通じた単元計画を工夫することで解消できるようにしたい。

〈大田市のもの・ことの紹介を受ける様子〉





〈大田市のきら☆びとヘプラン発表をする様子〉





〈地域の「ひと」と活動のふり返りをする様子〉

